



## 切り返しの発問やゆさぶりの発問で深める



### 児童の言葉を具体的にする



6年 「ここを走れば」  
～きまりに厳しく～

それどういうこと？

もうちょっと詳しく言って。

どうしてそう思うの？

児童の言葉が簡略されているようなときは、その言葉を具体的に表現させるようにする。具体的に言わせることで、言いたいことの真意が伝わってくる。

C：「やめようと思った。」

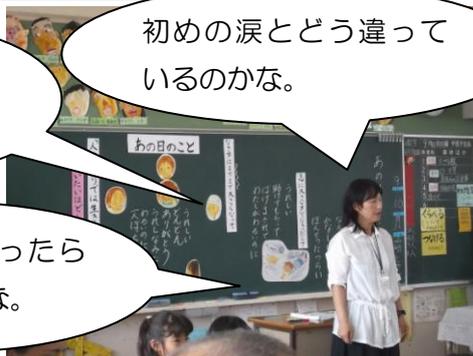
T：「どうしてそう思ったの？」

→「やってはいけないから。」

「父が悲しむから。」

「周りに迷惑だから。」 など

### 対比や仮定で考えを深める



3年 「あの日のこと」  
～心からありがとう～

〇〇ちゃんと同じなの？

初めの涙とどう違うているのかな。

もし言わなかったらどうだったかな。

場面の初めと終わり（気持ちに変化する前後）を比較して考えさせることで、変化した後の気持ち（道徳的価値に気づいた時の気持ち）がよりクローズアップされる。

また、児童から出た意見を対比させることで、考え方をより深めていくことができる。

「もし…なら」と仮定して比較することも同じ効果がある。

### 考えをゆさぶったり、否定したりする



2年 「ひみつのぼしょ」 ～自然を大切に～

本当にそうかな。

ほしかったはずなのに、どうして返そうと思ったのかな。

児童の建前やきれいごとにはゆさぶりをかけることで、児童は、当たり前だと思っていたことを、「ちょっと待って。」ともう一度立ち止まって考えたり、考えていたことを、「だって、それは…」と理由づけしようとしたりする。

そうやって言おうとすることこそ、道徳的価値の本当の意味が隠れていることが多い。